

2016年5月27日

2016年度の鉄道事業設備投資計画

安全性の向上やサービスの向上に総額217億円

京王電鉄株式会社（本社：東京都多摩市、会長兼社長：永田 正）では、京王グループ理念である『信頼のトップブランド』の確立を目指し、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり」を進めています。鉄道事業においては、お客様や沿線にお住まいの方に信頼され、愛される鉄道になるため、「安全性の向上」や「サービスの向上」に取り組みます。

2016年度は、総額217億円の設備投資を行い、安全で快適なサービスの提供に努めます。

《主な取り組み》

1. 安全性の向上

- (1) 京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業
- (2) 下北沢駅改良
- (3) 耐震補強
- (4) 自然災害対策
- (5) ホームドアの整備
- (6) 踏切障害物検知装置の高精度化

2. サービス向上

- (1) 新造車両「5000系」の導入
- (2) 車内液晶ディスプレイの2画面化
- (3) エレベーターの設置
- (4) 駅のリニューアル
- (5) 行先案内盤のマルチカラー化
- (6) 車両のリニューアル
- (7) 環境対策

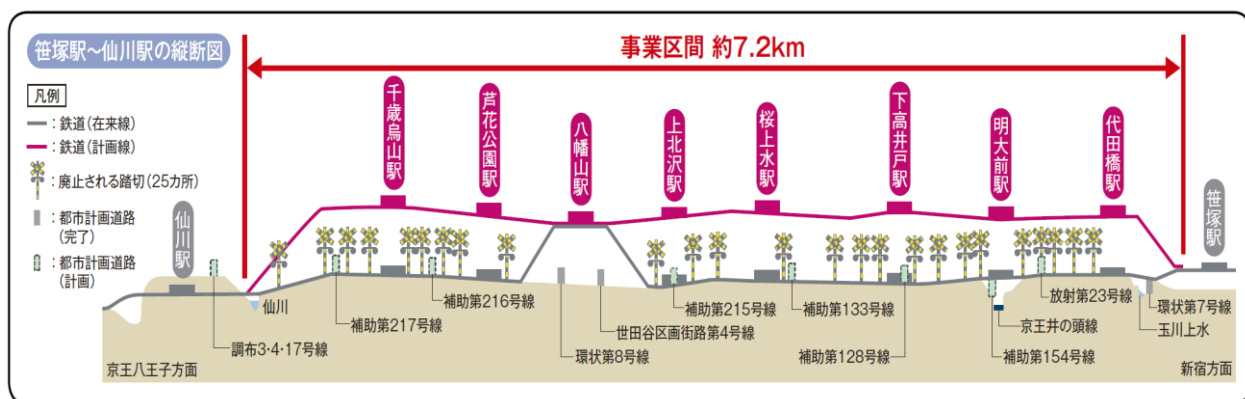
詳細は下記のとおりです。

1. 安全性の向上

(1) 京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業

事業主体である東京都および世田谷区・渋谷区・杉並区とともに、京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業を実施しています。2016年度は、工事に必要な用地取得や設計業務を進めます。

この事業が完了すると、笹塚駅から仙川駅間の約7.2Kmが高架化されるとともに、25箇所の踏切が廃止されます。これにより、道路と鉄道それぞれの安全性が向上するほか、交通渋滞の解消や、鉄道によって分断されていた地域の一体化が図られます。



《事業区間の縦断図》

(2) 下北沢駅改良

小田急線の複々線化事業にあわせ、井の頭線下北沢駅の改良工事を実施しています。2016年度は小田急線との乗換え通路の工事などを進めるほか、2018年度のエスカレーターやトイレ整備に向けた準備工事を進めます。

(3) 耐震補強

大規模地震に備え、高架橋や盛土区間などの耐震補強工事を進めるほか、コンクリート製の電力柱を鋼管柱に更新することにより、鉄道施設の耐震性を向上させます。



《補強後の高架橋》



《補強後の盛土区間》

(4) 自然災害対策

大雨による土砂災害の防止対策として、高尾線の線路脇斜面を防護する工事を進めます。また、信号設備などの電気機器の耐雷性を向上させるなど、落雷対策を進めます。



《防護前の斜面》



《防護後の斜面》

(5) ホームドアの整備

お客様のホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を防止するため、ホームドアの整備に取り組んでいます。

2016年度は、新線新宿駅や渋谷駅へのホームドア整備に向けた設計業務などを行い、2019年度までの使用開始を目指します。

(6) 踏切障害物検知装置の高精度化

踏切安全対策として、従来の光線式から、より高い精度で踏切内を検知できる3D式（面検知式）踏切障害物検知装置への更新を進め、保安度の向上を図ります。2016年度は、7箇所の踏切で更新します。

2. サービス向上

(1) 新造車両「5000系」の導入

勤務先や外出先からのお帰りの際、長距離区間をご利用になられるお客様の着席ニーズにお応えするため、2018年春に有料の座席指定列車の運行を開始します。運行の開始に向けて、クロスシートからロングシートに転換できる座席を採用した、新型車両「5000系」を導入します。

2016年度は、新造する車両の設計などを進めます。

※画像は全てイメージです



《新造車両（外観）》



《クロスシート（座席指定列車時）》



《ロングシート》

(2) 車内液晶ディスプレイの2画面化

車内に液晶ディスプレイを2画面設置し、運行情報の提供及びニュースや天気予報などのコンテンツ、交通広告を放映します。2016年度は、京王線9000系の7編成（70両）、井の頭線1000系の3編成（15両）を2画面化します。



《2画面化したディスプレイ 左：コンテンツ、右：運行情報》

(3) エレベーターの設置

2016年度内の使用開始を目指して、初台駅中央口改札内にエレベーターを設置します。これにより、駅の南北からホームまで段差なくご利用いただけるようになります。

(4) 駅のリニューアル

府中駅において、駅南側の再開発事業にあわせてリニューアル工事を実施します。また、京王よみうりランド駅においてもリニューアル工事を実施し、エレベーターの更新やトイレの改修などを行います。

(5) 行先案内盤のマルチカラー化

飛田給駅や高幡不動駅、吉祥寺駅において、行先案内盤を従来の4色表示からマルチカラー化して視認性を向上させます。



《従来の行先案内盤》



《マルチカラー化した行先案内盤》

(6) 車両のリニューアル

京王線8000系および井の頭線1000系車両のリニューアル工事を引き続き実施します。手すりやつり手を握りやすい形状に変更するほか、座席中間部の手すりや座席端部の仕切り板を設置します。2016年度は、京王線8000系3編成(28両)、井の頭線1000系3編成(15両)のリニューアルを実施します。



《リニューアル前(井の頭線1000系)》

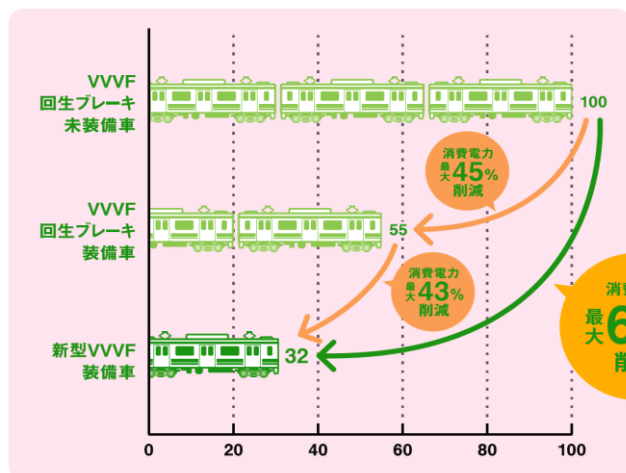


《リニューアル後(井の頭線1000系)》

(7) 環境対策

① 新型VVVFインバータ制御装置の導入

京王線8000系および井の頭線1000系車両において、VVVFインバータ制御装置の更新にあわせ、より省エネ性能の高い新型VVVFインバータ制御装置を導入し、運転用電力を削減します。

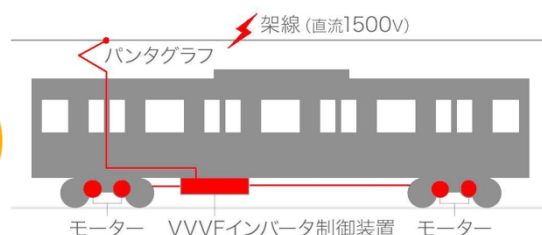


(注) 横軸は未装備車の使用電力量を100とした場合の数値

《8000系車両の消費電力削減効果》

VVVFインバータ制御装置

…電車の加速力や速度に応じて、電圧や周波数を変化させながらモーターを効率良く動かす装置



② 駅舎補助電源装置の新設

車両がブレーキをかけたときに発生する回生電力を、駅施設で利用可能とする駅舎補助電源装置を北野駅に新設します。



《駅舎補助電源装置の仕組み》

回生ブレーキ

…電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として動作させ、発生した電力(回生電力)を他の列車や駅で使えるようにする装置

③ 照明の省エネルギー化

車両や駅構内などにおける、照明のLED化を推進します。また、浜田山駅および高井戸駅に、駅照明の照度を天候などにあわせて自動調整する装置を導入します。

以上